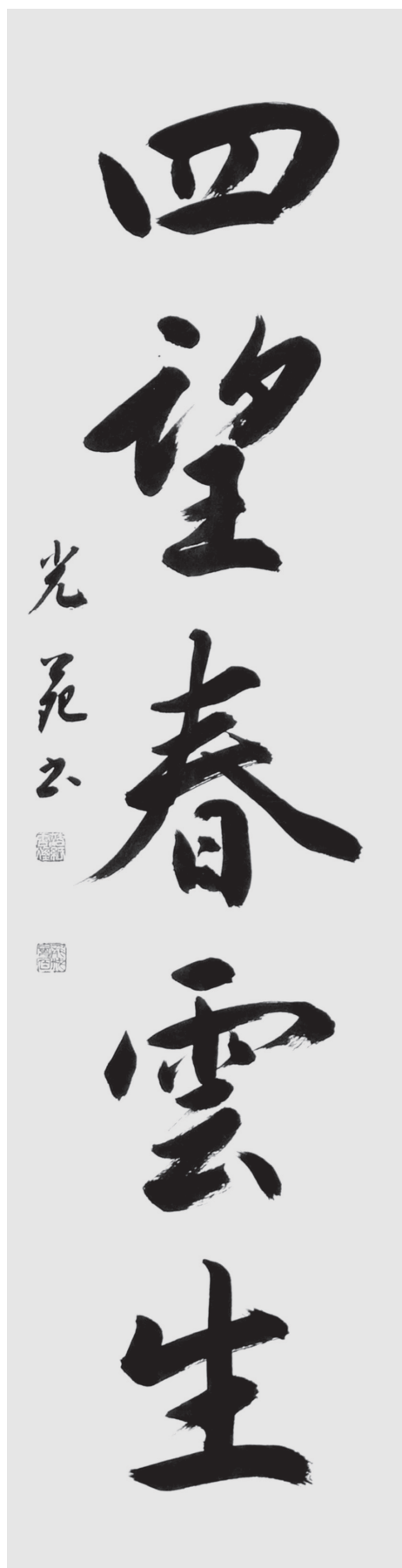


半切四分の一に書くⅡ（2）

締切り 二月二十二日（必着）



神谷 葵水 先生 書

◎本誌に条幅（半切）の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のことです。その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ（約六八cm×十七、五cm）で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。平成二十六年にも一年間学びましたので、今回はパートⅡになります。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕 四望春雲生
しほうしゅんうんしょうず

〔大意〕 よもに春の雲の生ずるを見る

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤渇も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べるのが肝要です。

・落款（署名・印）も作品の一部です。丁寧に収めましょう。印のない方は□を赤ペン又は朱墨で書いて下さい。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一（約六八cm×十七、五cm）に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5版（二五七mm×一八二mm）以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。（フエルトペン・筆ペン可）

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績（硬筆の場合は硬筆規定の成績）を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

一般部規定課題

締切り 2月22日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔変換例〕

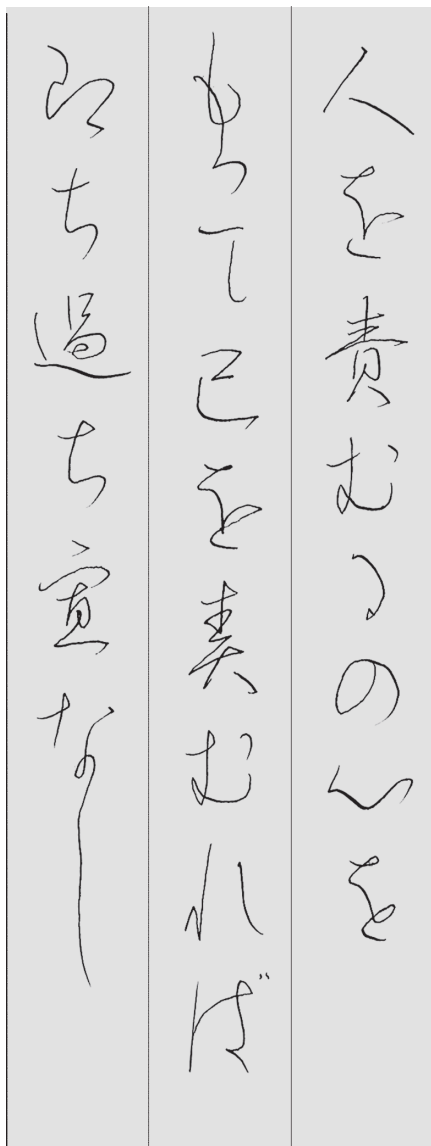
〔解説〕

〔読み〕人を責むるの心をもって己を責むれば即ち過ち寡なし

(責) 責 (己) 己 (即) 即 (過) 過 (寡) 寡

◎行書・草書はくずし方が多くあります。字典や左掲の〔変換例〕を参考に、オリジナルな作品に仕上げてみましょう。

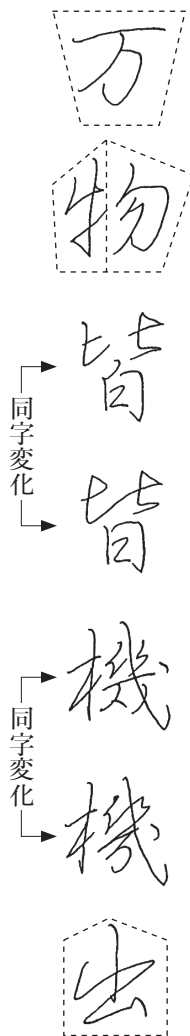
▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。



奥村暢之 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



「同字変化」

「同字変化」



大谷清城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★万物は…(書体Ⅱ行書)

列子(紀元前四〇〇年頃)

中国春秋戦国時代の思想家

宇宙のすべてのものには機というものが含まれていて、全てのものが次々に転生していくのも、この機の働きによると言っています。生物は、みな機の働きにより姿を変えていくとも考えられ、時にはそういう目で世界を眺めることも必要かもしれません。

◆3月課題予告(楷書)

立派な風采は

推薦状である

英国の諺

★人を…(書体Ⅱ行草または草書)

林逋(九六七〜一〇二八)

中国・宋時代の詩人

人には厳しく自分には甘くなりがちなのが人間です。他人を責めるほどの厳しい態度で自分を責めるなど、考えただけでも身が縮む思いがします。自分を許す寛容さを人に対して持てば、自身の間違いや欠点は少なくなり、他人に対する不満も減るでしょう。

◆3月課題予告(行書)

文章の法は

言葉をつづめて

理の顕るるを本とす

▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

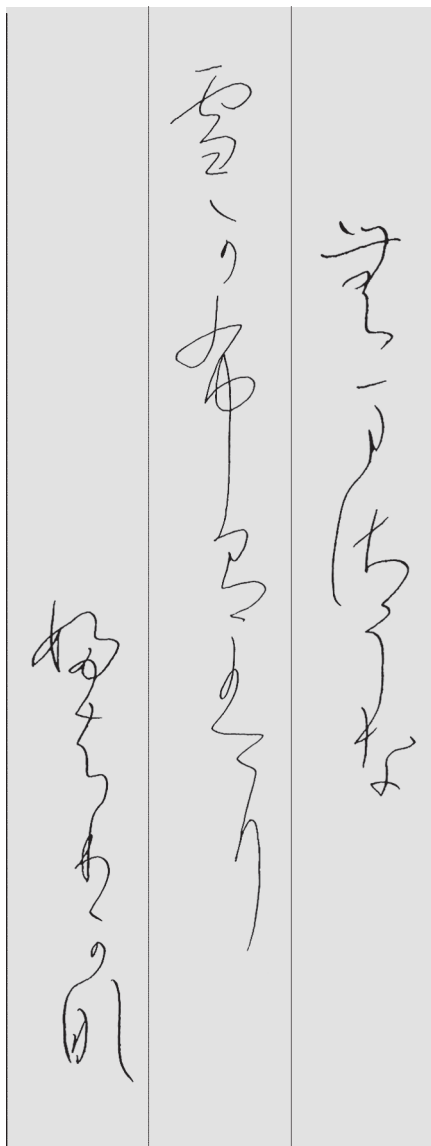
一般部かな課題

締切り 2月22日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

無万佐
むまさうな雪がふうはりふはりかな



有遊可
むまさうな雪がふうはりふはりかな

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

	好	
	き	む
	り	よ
そ	ふ	さ
い	う	馬
り	も	な
か	い	
ふ		

たなかきこう 書
田中貴光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

たなかきこう 書
田中貴光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆3月課題予告

野を焼くやぼつんぽつんと雨到る

(村上鬼城)

無む 有う 遊ゆ 布ふ 婦ふ
む ま さ う な
ゆ き が ふ う は り ふ は り か な
む ま さ う な
ゆ き が ふ う は り ふ は り か な

【解説】「ふ」の二画目の最後は横方向に、三画目は少し縦方向に書き、細く縦長に仕立てると良い。

むまさうな雪がふうはりふはりかな

(小林一茶)

【句解】空から大きな牡丹雪が、ゆっくりゆっくりと舞い落ちてくる。綿菓子を手切ったように、いかにもうまそうで、手に取って食べたくなるような感じだ。

【鑑賞】この雪は、綿を手切ったような、大きな牡丹雪であろう。へむまさうな」という味覚的な感じ方は、いかにも一茶らしく、童心の世界を思わせる楽しい句である。

【古筆参考】

無む 有う 遊ゆ 布ふ 婦ふ

む ま さ う な

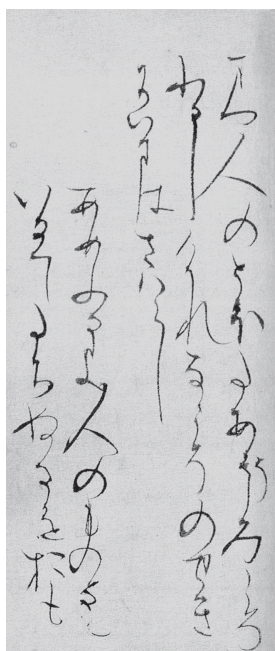
ゆ き が ふ う は り ふ は り か な

む ま さ う な

ゆ き が ふ う は り ふ は り か な

〔古筆参考〕

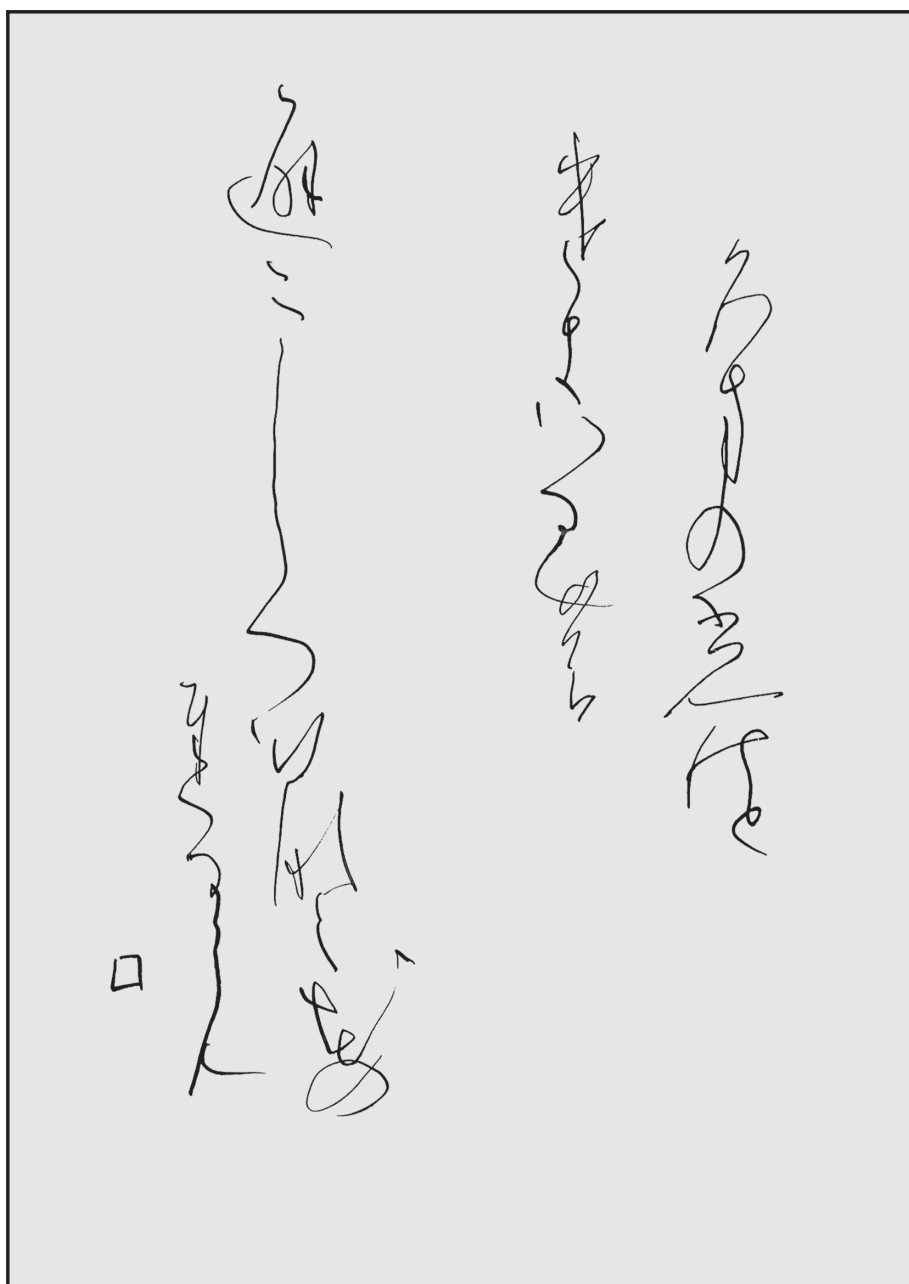
なかつかさしゅう
中務集



まつ人のとほたあうみこそ
わびしけれなこそそのせき
にいまはさはらじ
あめふるよ人のものなど
いひてたちぬるを、おも

締切り 二月二十二日（必着）

築瀬舟香書



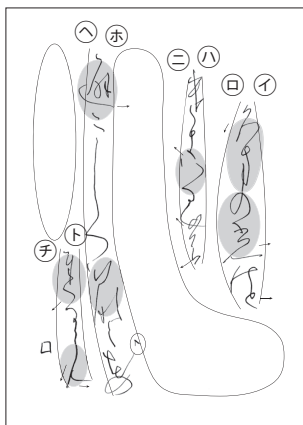
ひさかたの光のどけき春の日に
しづ心なく花の散るらむ

〔歌意〕 日の光がのどかに輝いている
春の日に、なぜ、あわただしく花は散
るのであろうか。

〔出典〕 古今和歌集

（新潮日本古典集成）

〔解説〕



- ・ ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、それぞれ呼応。
- ・ 〇余白大切。

- ・ 密の部分大切、の動きが作品の安定感を作り出す。
- ・ の方向、指向性で面がまとまる。

◆3月課題予告

わがやどの花見がてらに來る人は
散りなむのちぞ恋しかるべき

締切り 2月22日(必着)

昨年は今頃は、関市の百年公園へ
梅を見に出掛けましたね。そろそろ
蕾もふくらみ始めていると思うと
ワクワクしてきます。今年も梅の
花を満喫したら、いつものお店で
シェフ自慢のランチでも一緒に。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

昨年の今頃は、関市の百年公園へ
梅を見に出掛けましたね。そろそろ
蕾もふくらみ始めていると思うと
ワクワクしてきます。今年も梅の
花を満喫したら、いつものお店で
シェフ自慢のランチでも一緒に。

※お詫びと訂正 1月号はがき課題で「健」の字のえん(えんにょう)が抜けておりました。正しくは「健」です。お詫びして訂正いたします。

横 書 き 課 題

お ぐ 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

石川啄木の処女歌集「一握の砂」は
生活派短歌を生む原動力となった。

沖縄県糸満市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 2月22日(必着)

新入から1級まで(行書)

須田一葉書

瑞氣満
梅花

〔読み〕 ずいきばいかみ 瑞気梅花に満つ。

〔大意〕 春の良い気が梅の花に満ちている。

準初段から師範まで

神谷葵水先生臨

倫有識
不縁受

〔出典〕 集字聖教序(672) 〔筆者〕 王羲之法書より集字

〔読み〕 (じん りんしき あ けい よ) (人) 倫識有り、慶に縁らずして

倫有識不縁受

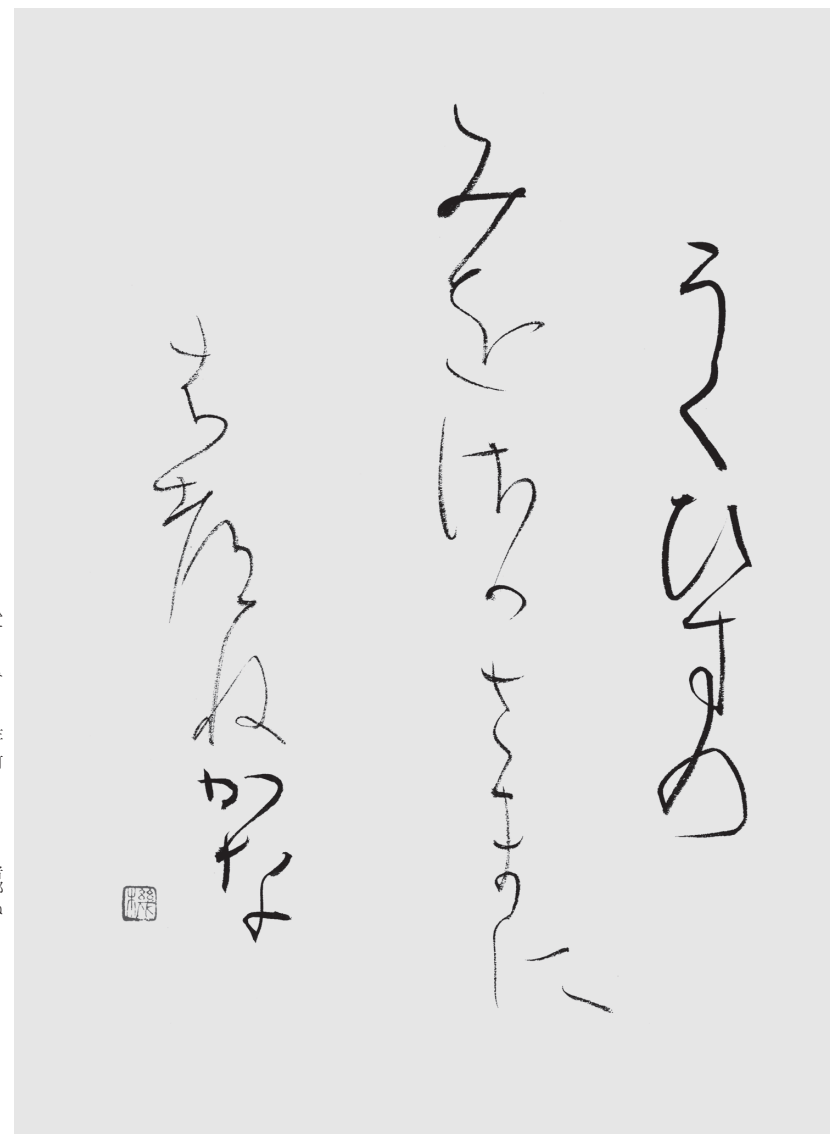
倫有識不縁慶

一般部毛筆かな課題

締切り 2月22日(必着)

新入から1級まで

浅井機山先生書

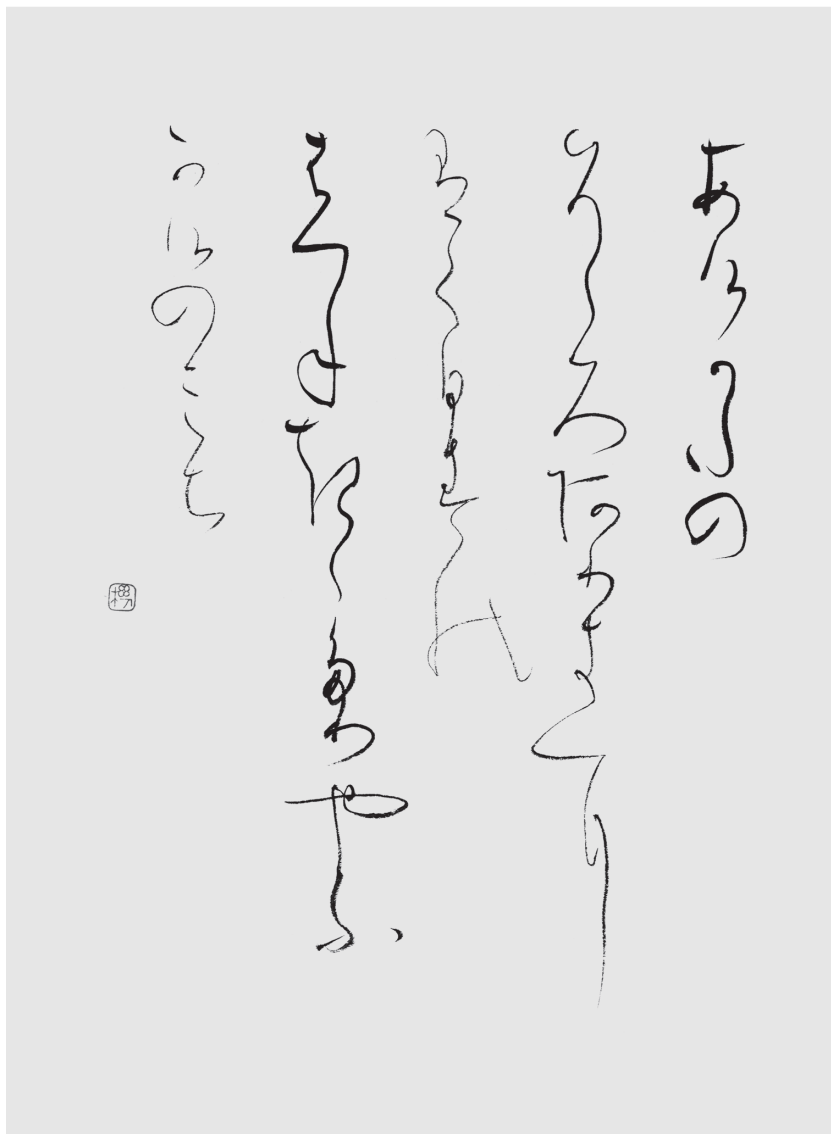


〔出典〕 榎本其角

〔句意〕 鶯が ^{からだ} 軀 をさかさまにして初音を鳴いているの意。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



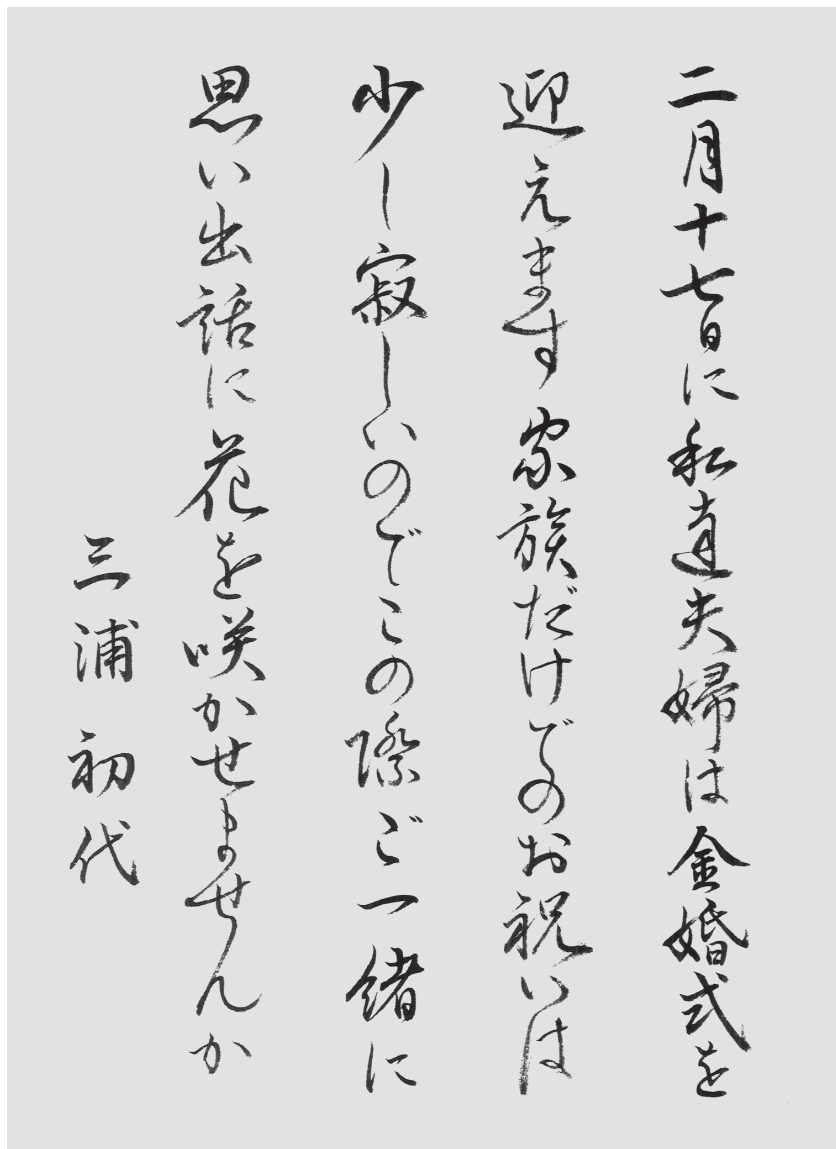
〔出典〕 金子薫園

〔歌意〕 あけがたの、何のあてもない散歩に、鶯の初音を聞いたことだ。
藪かげの道で。

あけがたの、何のあてもない散歩に、鶯の初音を聞いたことだ。
藪かげの道で。

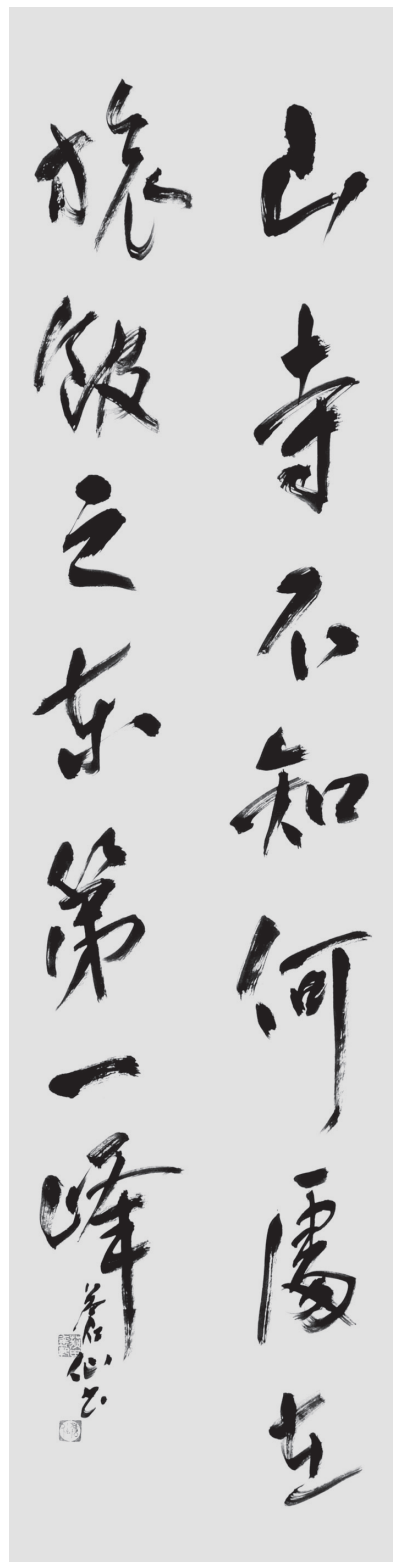
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

伊藤梅香 書



締切り 二月二十二日 (必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙 書

- 印で墨つきしました。
- 〔条幅・細字作品の出し方〕
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

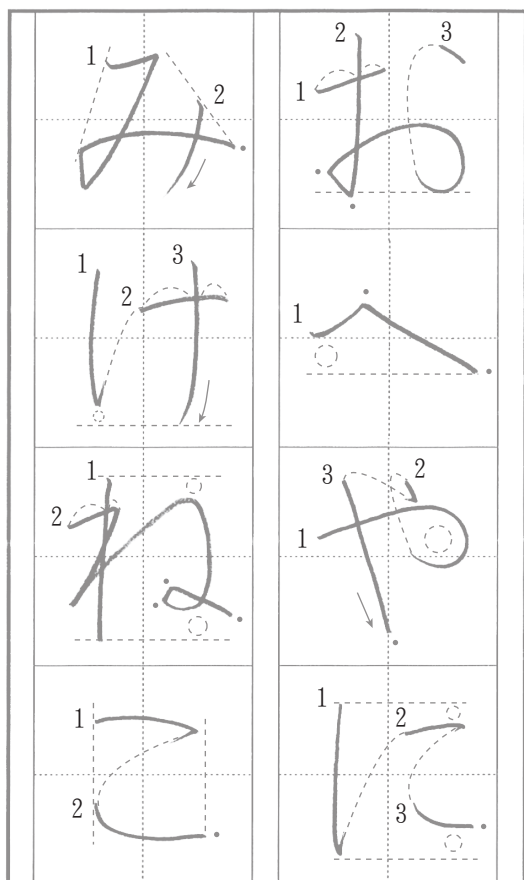
二月十七日に私達夫婦は金婚式を迎えます。家族だけのお祝いは少し寂しいので、この際、一緒に思い出話に花を咲かせませんか。

(ご自分の氏名)

〔条幅解説〕丁度、奥村会長の作品にもありましたが、「守」：手本を忠実に書く：この時に、しっかり書の底辺を広げておく。そして「破」に、やがて「離」に向かう。師から離れるのではなく書風を。手本そっくりで八十点、自分の力を投入して百二十点という大家あり。時になれば、自分の歩んだ人生で書く勇氣を持ちたいもの。

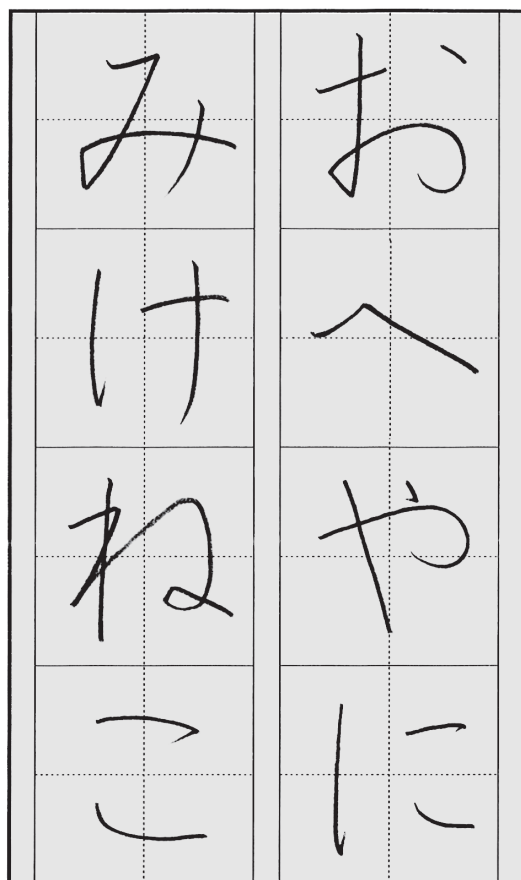
山寺不知何處在
旅館之東第一峰
〔大意〕山の寺はどこにあるのだろう。この宿の東の一番高い山から鐘が聞こえてくる。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)



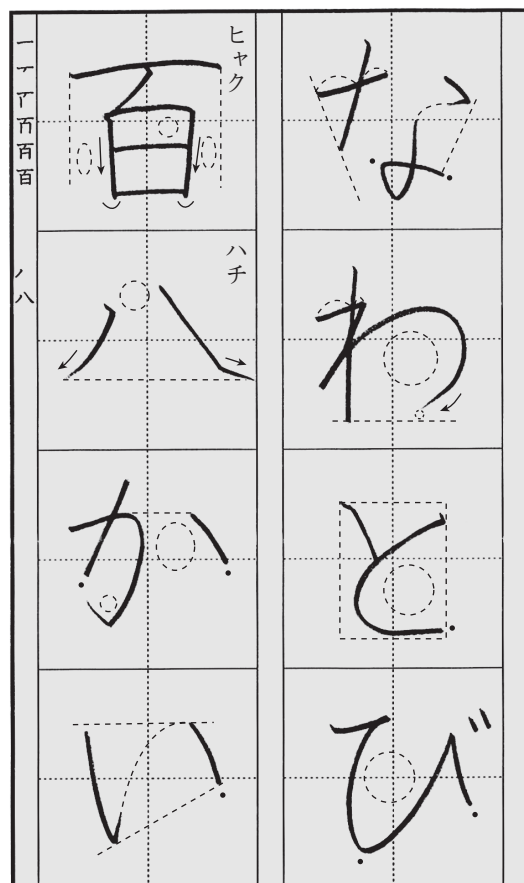
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

一十才木	木	き	ノ入	入	い
一ヨヨ戸	戸	ど		り	
十才青直	直	なお	一ロロ	口	ぐち
	す			の	

新入〜1級

戸	入	古
を	り	く
直	口	な
す	の	っ
よ	木	た

小二年

準初段以上

イヤ集集集	集	シユウ	か
ノハ合合合	合	ゴウ	け
	す	一ロアア足	足
	る		で

新入〜1級

に	足	体
集	で	育
合	運	は
す	動	か
る	場	け

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小四年

木	空	望
星	に	遠
を	う	鏡
見	か	で
る	ぶ	夜

準初段以上

新入〜1級

一十才木	モク	望	ボウ
四四早星	セイ	遠	エン
四四目月見	ミ	鏡	キョウ
		で	

〈用具〉自由(黒色に限る)

小五年

早	情	試
く	報	合
調	を	結
べ	い	果
る	ち	の

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

ハヤ情情情	ジヨウ	試	シ
ホウ	報	合	あい
はや(い)	結	結	ケツ
しら(べる)	調	果	カ

小四年以上 岡嶋桂川書

小六年

日	設	悪
に	工	天
延	事	候
期	は	で
だ	翌	建

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

セツ	アキ
一画 垂 悪	一画 垂 天
コウ	テン
一画 工	一画 天
ジ	コウ
一画 事	一画 候
ヨク	ケン
一画 翌	一画 建

〈用具〉自由(黒色に限る)

中一年

に	参	奉
貢	加	仕
献	し	活
す	地	動
る	域	に

(行書)

中二・三年

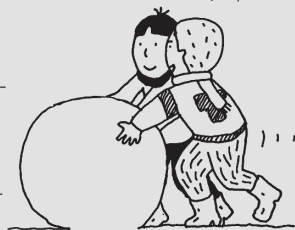
(行書)

し	洗	毎
て	濯	日
手	を	の
伝	率	炊
う	先	事

▼小三年以下の課題

さか い けい げつ
酒 井 桂 月 書

作 ^{つく}	雪 ^{ゆき}	真 ^ま	転 ^{ころ}	ゴ
り	ダ	ん	が	ロ
ま	ル	丸 ^{まる}	し	ゴ
す	マ	の	て	ロ
	を			



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 2月22日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

はやし すい ふう
林 翠 風 書

滑 ^{すべ}	軽 ^{かる}	音 ^{おん}	姉 ^{あね}	氷 ^{ひょう}
り	や	楽 ^{がく}	と	上 ^{じょう}
ま	か	に	ペ	で
す	に	合 ^あ	ア	
		わ	を	
		せ	組	
			み	



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年
水野碧友書



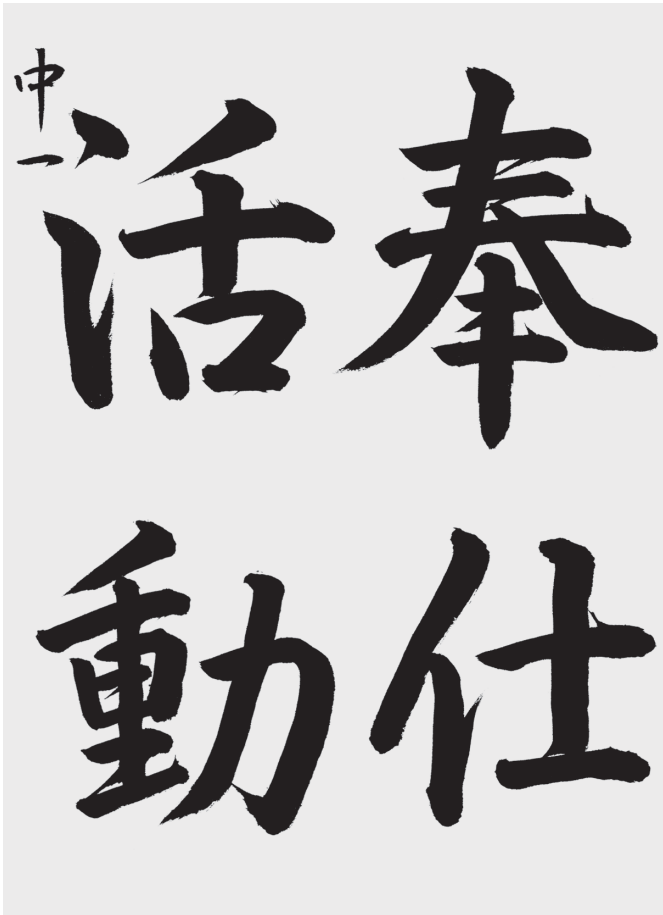
小五
試合
結果

かけ
足

見
け
結
足
果
星

小四
見
木
る
星

小三、小五年
玉樹小華書



小六・中二・三年
水野香竹書

行書は線のつながりや気脈に注意して書こう